# 6　女性委員会 30 周年記念事業

兵庫県建築士会女性委員会 30 周年記念企画
兵庫県建士会ユニバーサル建築研究会共催

## 阪神甲子園球場見学会報告

寒くなるという予報でしたが、思いのほかやわらかな日差しの中、2013 年 2 月 9 日(土)午後、阪神甲子園球場の見学会が行われました。奈良・和歌山・滋賀の近建女の方や、リニュ―アル工事をされた大林組設計部の方などを含め、40 名の参加でした。

まず多目的ホールにて、西宮市建築指導課の西原誠助氏のレクチャーを受けました。西原氏はこの度のリニューアル工事に際して各届出に関与されただけでなく、学生時代、この球場でアルバイトされたことがあり、球場とのご縁が深いようです。

甲子園という名前は、球場が出来た大正 13 年の十干と十二支がともに先頭の「甲（きのえ)」と「子（ね)」であったことから、「60 年に一度の縁起のいい年」として名づけられたそうです。
甲子園球場は敷地　約 54,000㎡　建築面積約 24,000 ㎡　延床面積　約 37,000 ㎡。収容観客数 47,000 人。
平成 19 年から 21 年のシーズンオフ中に、大林組によってリニューアル工事が施工されました。

西宮市役所建築指導課では、工事中における安全上の措置等に関する計画の届出、全体計画認定申請、防災計画、特定施設建設等届を担当され、それぞれについて資料を参照しながら、詳しく説明されました。

阪神甲子園球場は「既存不適格建築物」で、工事期間に制約があり、3 期に分けての工事であるが全体計画認定により、完了時に現行法規に適合すればよく、また工事中に法改正があっても適用されないということでした。

防災計画については、球場は 6 つの棟の集合体によって形成されることから、各棟で防火区画を行い、避難についても各棟単独で避難が完結できるよう、綿密な計画がされたことを説明されました。

特定施設建設等届(兵庫県福祉のまちづくり条例)により、廊下などのスロープで、1/8 以下の勾配を確保できない床面はゼブラ塗装、両側手摺が義務付けられています。一般客用トイレにはすべてバリアフリートイレが 1 箇所設置され、オストメイト対応の多目的トイレは 7 か所設置されました。

その他、掘りごたつ式の座席やプレミアラウンジ、個室タイプのロイヤルスイートなど、新しいタイプの席も設けられました。

内部スタンドを覆う屋根（銀傘)は 4 代目で、広さは従来の 1.4 倍に広がり、高さも 5mアップ。屋根を支える支柱が 12m後退し、柱の影響により視界を遮られる座席が減少したということでした。

レクチャ―後は、約 50 分のスタジアムツア―です。まず観客席下の通路を通り、選手がウォ―ミングアップする屋内練習場へ。ここは元は室内プールであったところだそうです。自由にバット、グローブ、ヘルメットをつけ、全員で記念撮影。続いて 3 塁側ロッカールームへ。ネットで仕切られ、棚にハンガー、椅子のみの思いのほか簡素な作りです。写真によると阪神タイガースのロッカールームはもっと高級な感じのようでした。その後いよいよグラウンドに出ると、その広さに圧倒されます。黒い土と冬でも緑色の芝生が鮮やかでした。シーズンオフの今もトラクターでグラウンドが整備されていました。

スタジアムツアー後、時間のある人は甲子園歴史館も見学しました。近くにありながら、めったに足を運ぶことがない甲子園球場。新しい設備に変貌をとげた甲子園球場。車椅子用観客席（31 席)、授乳室、託児所、喫煙室の設置等、ＵＤ建築研のメンバーとして興味深い箇所は、残念ながら見学できませんでしたが、次回はぜひシーズン中に足を運びたいものです。
（岩井一枝）

「建築と伝統芸能を学ぶ」　第 1 弾

# 高砂神社能舞台工事現場見学とまち歩き

文・写真／女性委員会　杉本雅子

女性委員会は今年度 30 周年を迎えました。この節目の記念事業として、伝統芸能「能」と「能舞台」を取り上げ、建築と芸能の両面を学ぶ事業を企画しています。

その第 1 弾は、地域巡回見学活動として、能全体の代表作といわれる「高砂」の舞台となった高砂の地を訪れました。高砂神社で建築中の能舞台の工事現場を見学し、併せて、江戸時代に姫路藩より計画的なまちづくりが行われ、近代以降、産業都市として発展した高砂の堀川周辺のまち歩きを行いました。

6 月 23 日（日）、参加者 25 名が山陽高砂駅前に集合し、地元で活躍されているヘリテージマネージャの皆さまの案内のもと、小雨の降る中、掘川沿いの景観や町屋を見学しながら、高砂神社へと向かいました。

## ■高砂神社能舞台建築工事現場見学

目付柱付近より能舞台を見る

高砂神社は、世阿弥作の「高砂」に名高い相生松を境内に有します。既存の能舞台の老朽化に伴い、市民有志によって「高砂に新しい能舞台をつくる会」が結成され、寄付金による能舞台の建設が行われています。平成 24 年 11 月 1 日に着工し、平成 25 年 8 月 31 日の竣工を目指し工事中です。設計者のアトリエフォルム吉田氏によると、現存する代表的な能舞台を参考に、古典芸能の舞台としての様式に忠実に沿いつつ、現代の最新技術も用いながら、コストを抑え、芸能の新しい可能性への工夫も込められて設計されています。

新しい舞台は、既存の能舞台を残したまま、神社の拝殿に対面させ、ご神木である樹木を 1 本も切らない位置に配置されています。能のあらゆる演目に対応可能であることを意図され、舞台寸法は 5.9m×5.9m、軒高さは 5.2mで、これは篠山の春日神社能舞台に並ぶ最大級の能舞台です。入母屋屋根に舞台角の目付柱には 240 角の桧の芯取り材が用いられた伝統木構造。限界耐力計算にて構造の解析がされています。能舞台の床下には、通常、音の響きを良くするために甕（かめ）が埋められますが、ここでは甕（かめ）は用いず、舞台下の床スラブをすり鉢状にして音響効果を狙っているそうです。舞台正面の鏡板には黒松が描かれますが、高砂神社の「相生松」にちなんで、赤松と黒松が配され、現在、京都にある画家の工房へ鏡板が持ち込まれています。完成後は、能楽師による正式な公演だけではなく、地域の人々に広くこの舞台に親しんでもらう為、能の公演以外の用に供する時のための床や鏡板の養生用の化粧材も検討されているそうです。今年 10 月にはこけら落とし公演が行われる予定です。

橋がかりより舞台方向へ向かう

## ■高砂まちあるき

高砂神社を後にして、碁盤目状に整然と計画された町割りを歩きました。この日訪れた近代町屋は、花井家住宅、松宗蔵、大崎家住宅、脇村家住宅、加藤家住宅(旧鍛冶医院)、高砂や(旧尾崎家住宅)等。町屋以外では、現在も薪で湯を沸かす銭湯、梅が枝湯、市民に活動の場を無償で提供する 0 円プロジェクト等。実際に使用されている建物ばかりで、家人やスタッフの方から、まちへの思い、歴代の当主や家業のエピソード、歴史的建造物の維持の苦労談など、直接話を聞くことができ、密度の濃いまち歩きとなりました。

女性委員会　設立 30 周年事業報告　　「しなやかに・・・たおやかに・・・」

# 伝統芸能　能　の空間世界を体験する

女性委員会　　鷲尾　真弓

経済や文化などさまざまな側面においてグローバル化が進行する中、日本文化をあらためて見つめなおそうという動きが多方面で見られています。平成 25 年 9 月 28 日（土）に開催した女性委員会設立 30 周年の記念事業も、私たちが普段触れることの少ない日本の伝統芸能の「能」、そしてその舞台建築はどのようなものなのかを歴史的、文化的、建築的アプローチから学んでみようという企画から出発したものです。6 月の高砂神社能舞台の工事現場見学に続き、今回は「能」の芸能と空間世界を体験いたしました。

## ■第 1 部 （講習） 伝統芸能「能」の魅力と能舞台

「能」の世界を堪能するために、まずは予備知識を得ておくことが重要です。そのため、第 1 部として能の歴史文化と建築に関する講習会を芦屋市民センターで開催しました。

能の基礎知識を学んだ講習会（第 1 部）

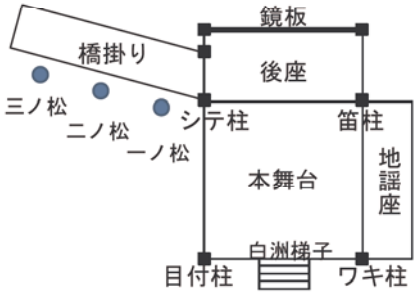
まずは女性委員会委員で、能の謡を習っておられる杉本雅子さんから、能楽の知識をお話いただきました。

観世流能楽師の武田宗典先生のお言葉をお借りすると「能楽は和風ミュージカル」。確かにお芝居としてのストーリー、それにセリフがあり、さらにダンスと歌が加わり一体となって物語の世界を表現しています。なるほどそういわれると、少し身近な感じがしてきます。が、やはり能は伝統芸能。その歴史は本当に古く、6 世紀に中国から伝わった「雅楽」「散楽」に遡ります。これに日本古来の芸能が混ざり合って「猿楽」が流行するなど、室町初期にかけて能の原型ができてきたところに、観阿弥・世阿弥（教科書に出てきた懐かしい名前！）というスーパー親子が登場し、洗練された高度な舞台芸能に大成させていくことになります。

能楽は役割分担が「シテ（主役）」、「ワキ（相手役）」、「間狂言（説明）」、「囃子（演奏）」など明確になっており、それぞれの役には決まった数の流儀があります。また能の多くは夢幻能という霊的な存在を主人公としたものが多く、神様がシテとなる「脇能物」や戦で修羅道に落ちた武将の亡霊がシテとなる「修羅物」などシテの役柄で大きく 5 つに分類されるそうです。このような演劇としての仕組みが基本形をほとんど変えずに、また時代時代に対応しながら伝承されているということにとても驚き、感心いたしました。

次に同じく女性委員会委員の矢代恵さんからは、能舞台の基本知識と事例をご紹介いただきました。

日本の能舞台は 1581 年に建てられた国宝西本願寺北能舞台が現存する最古のもので、能の大成とともに能舞台の基本形が出来上がっていきます。「本舞台」は厳しい選別を受けたヒノキ板が縦に張られており、釘ではなく鎹で固定しています。「鏡板」は背景や反響版であり、江戸時代以降は老松が大きく描かれるようになりました。また、4 つの柱はそれぞれ演者にとって何らかの役割を果たしており、シテ柱、目付柱、ワキ柱、笛柱といった名前がつけられています。また、橋掛りや本舞台の下には甕が複数置かれており、音の反響の効果があるとのこと。先日見学した高砂神社では、ベタ基礎のために甕が埋められないことから、基礎をすり鉢状にしてみたところ、とてもいい音になったそうです。




図：能舞台のつくり

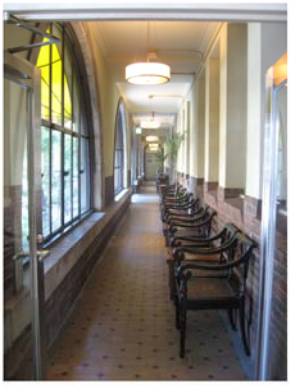
能舞台はもともと屋外に作られていたもので、観客席と一緒になって一つの建物の中に入る「能楽堂」となったのは明治以降のことです。実は兵庫県内にもたくさんの能舞台が現存していますが、ほとんど屋外となっています。有名なものでは、重要文化財となっている春日神社能舞台（篠山市）や県指定文化財の大川瀬住吉神社（三田市）など。特に農村歌舞伎舞台は全国で一番多く、特に明石川から加古川付近の播州灘に集中しているとのこと。灯台下暗しです。

いろんな「能」のお話を伺って、皆さんとも午後の体験がますます楽しみになってきたようでした。

## ■第 2 部　女性委員会 30 周年記念懇親会

第 1 部の講習会の後は、会場を「芦屋モノリス」に移して、女性委員会 30 周年記念懇親会を開催しました。「芦屋モノリス」は旧逓信省の電報電話局として 1929 年に建築された歴史的建築物です。レトロモダンなネオ・ルネッサンス様式で、

今はその外観をそのまま残し、2005 年婚礼施設兼レストランとして運営されています。 懇親会には、歴代委員長や現役委員、また奈良士会の女性委員会の皆さんもゲストでお越しくださり、計 19 名がおしゃれな雰囲気で和気あいあいと美味しいランチをいただきました。先輩方の錚々たる顔ぶれを拝見しつつ、初代委員長の中川さんからは、当時の人集めを鍵野さんとご苦労されたことや女性部会設立に対して士会内部でいろんな意見があったことについてご紹介いただくなど、貴重なご経験や懐かしいエピソードを伺いながら、女性部会・委員会の 30 年という年月の重みをあらためて感じることができたひとときでした。



芦屋モノリスの回廊

■第 3 部　能楽体験

最後はいよいよお待ちかねの能楽体験です。講師はいずれも観世流能楽師の武田宗典先生、長山耕三先生です。今回は長山先生のご自宅に併設された「芦屋能舞台」という素敵でかつ本格的な会場をお借りすることができました。

まず、武田先生から能を楽しむポイントとして、分業（シテ役など）が明確になっていることや、表情ではなくちょっとした身体表現の差で感情を表現するので、観客にはその想像力が必要となることなどをお話しいただき、私たちも実際に発声や喜怒哀楽祈りの表現などを体験してみました。

やさしく楽しく教えてくださる武田宗典

次に能面の実物を見せていただきました。写真のものは私たちにもなんとなく馴染みのある若い女性の能面です。もうひとつ見せていただいたのは鬼面。「般若」と呼ばれるものです。（皆さん、時々こんな顔をしているかもしれませんが！）能面は無表情に見えますが、顔をやや上にあげると「テル（照る）」 。少し笑っているように見えます。逆にやや下に伏せると「クモラル（曇らす）」。泣いているようにも見えます。実際にやっていただくと確かにそのとおり。ほんのわずかな動きでそのような感情表現もできるということにとても驚かされました。

いよいよお稽古体験の時間。22 名の参加者が 3 グループに分かれて、順番に舞台上にあがって仕舞を教えていただきました。まずは基本姿勢から。背筋・首筋は伸ばし、両肘は軽く横に張り、両ひざは柔らかくやや曲げます。これが案外難しい！さらに歩き方は摺り足といって、足を舞台に擦り付けて歩き、摺った最後はつま先を少しだけ上げます。これに扇を持つと、何かそれっぽく見えてくるから不思議です。

真剣な表情で「サシ込開」を実践中

そして能の最も一般的といわれる「サシ込開」という型に挑戦です。右手（扇）を下から自分の前にあげながら、数歩摺り足で前進し止まる。そして今度は、左足から後ろに下がり両腕を斜め前に開き、最後は足を引き揃えながら両腕を下げて元の構えに戻します。先生が実演されているときは「なるほど」と思うのですが、自分でやると腕か足かのどこかがおかしくなってしまいます。でも、とても優雅な動きはどこか落ち着いた気分にさせてくれるような気がしました。

ド素人の体験の後は、両先生によるプロの仕舞実演を拝見させていただきました。お見せいただいた演目のひとつ「鵺（ぬえ）」は帝を困らせていた怪物の亡霊のこと。矢に射られて退治されてしまい、淀川に流され、芦屋付近に引っかかったという話だそうです。（芦屋には本当に「ぬえ塚」という場所があります！）それまでに教えていただいた顔の動きや型を発見したり、これはこういう気持ちの表現なのかなと想像してみたりして、はじめて「能」の世界にちゃんと触れることができたような感じがしました。

能の世界を堪能した女性委員会メンバー

時代にあわせた変化をしながら、大切なことはしっかり継承していく。女性委員会もそんなしなやかさ、たおやかさを持ちながら、これからも活動を続けていきたいと思います。

# 女性委員会 30 周年記念　会員アンケート結果

私たち女性建築士を取り巻く環境はこの 30 年で大きく変容しており、女性の社会進出は建築業界でも当たり前になったといえます。とはいえ、相変わらず少数派であることや社会経済情勢や家族のあり方の変化などの影響を受けやすい立場であることを感じざるを得ない場面も少なくないのではないでしょうか。

30 周年という節目にあたり、女性建築士はどのような働き方をしているのか、女性建築士に求められるものとは何なのかといった内容について、10 周年（前々回）・20 周年（前回）に引き続いて会員アンケートを実施いたしました。

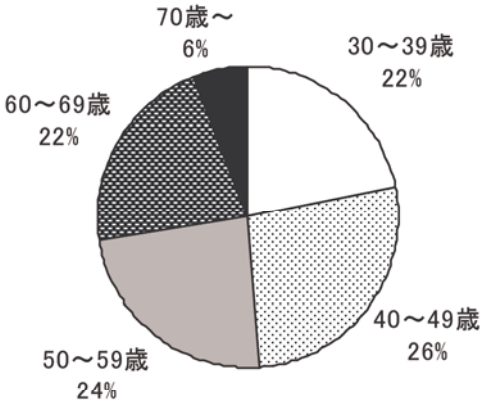
これからの仕事と家庭のあり方、生き方を考えるうえで、何らかの参考になれば幸いです。

アンケート対象者　女性会員：１０８名（配布時）
有効回答数：５１名（回答率４７％）

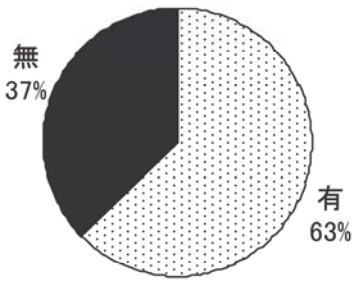
## Ⅰ　一般事項

回答者は前回 73 名→51 名と減少しており、年代別に見ると若年・中堅層の減少傾向がさらに進んでいることもわかった。（20 代：前々回 40%→前回 11%→今回 0%、30 代：30%→36%→22%、40 代：20%→28%→26%、50 代以上：13%→25%→52%）

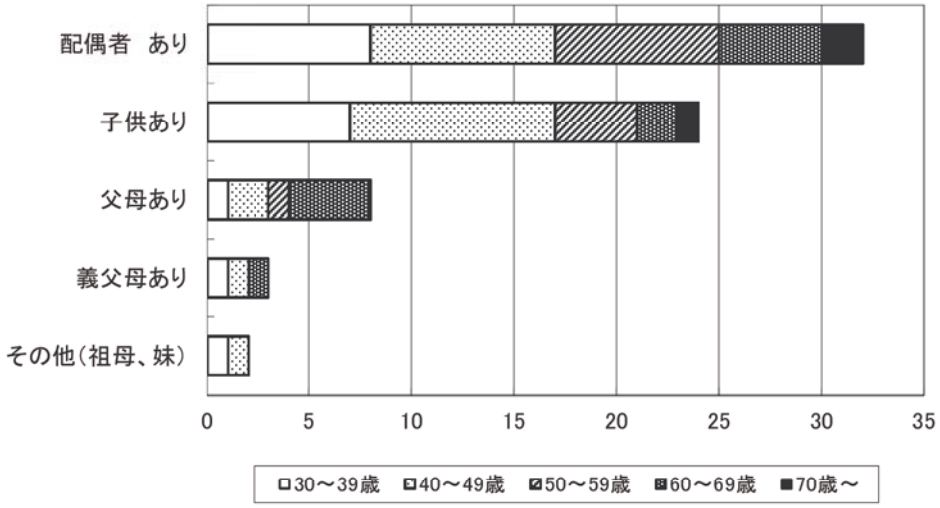
回答者年代




配偶者の有無



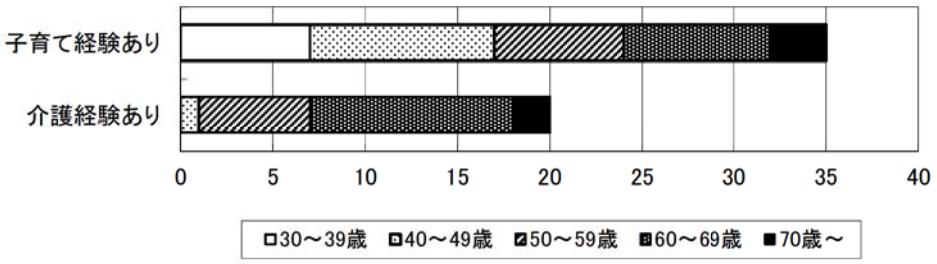

同居家族の有無と年代構成



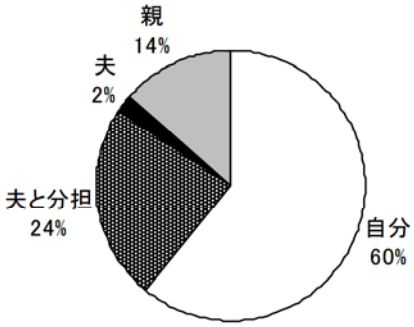

既婚率は 63%と横ばい（前々回 65%→前回 64%）で世代に大きな偏りはなかった。同居の子供の有無は 47%（前々回 44%→前回 56%）、同居の父母・義父母の有無は 25%（参考：同居高齢者前々回 31%→前回 26%）で、後者は熟年層にやや多い傾向が見られた。

子育て経験は世代に偏りなく 69%がありと回答。介護経験は 40%がありと回答したが、熟年層に多い傾向が見られた。また、平日の家事の担い手については、やはり「自分」が 60%と最も多かったが、このうち 30 代については 45%が「夫と分担」「夫」との回答となっていたことは注目すべき点と思われる。

**子育て･介護経験の有無**




**平日の家事の担い手**



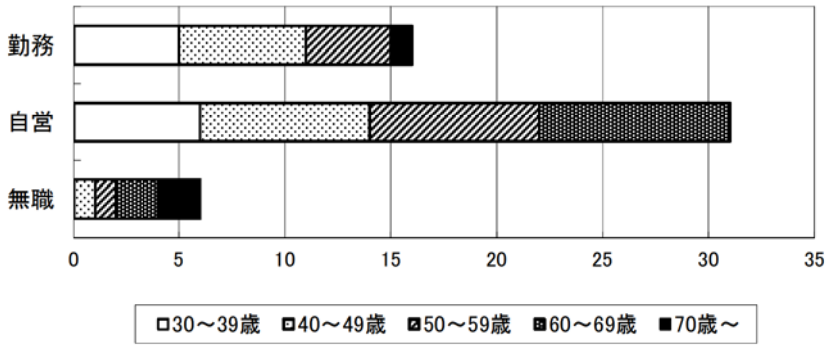

## Ⅱ　仕事について

仕事形態については、勤務 31%、自営 60%（前回 44%）と、自営が多い傾向が続いている。

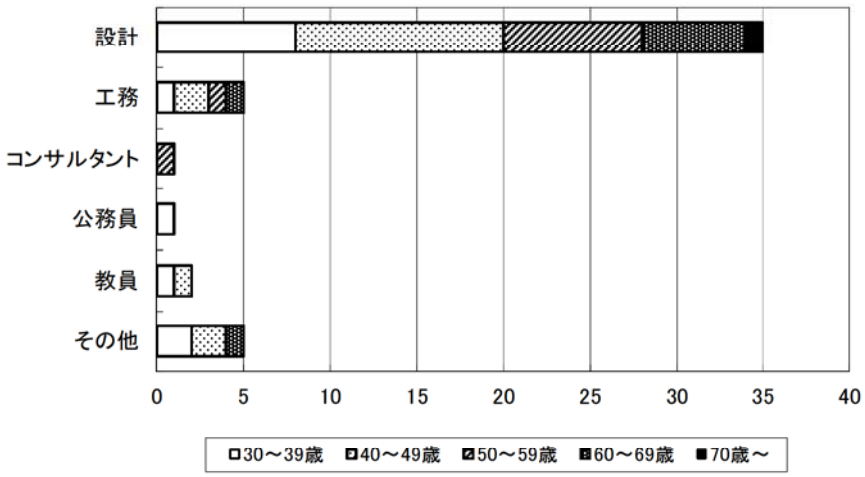
職種では、設計が 69%と圧倒的に多く、次に工務が続く。その他としては、CG・プレゼンや民間確認検査機関などが新たな業務に入ってきている。

就業時間としては、フルタイムが年代の偏りなく、最も多くなっている。

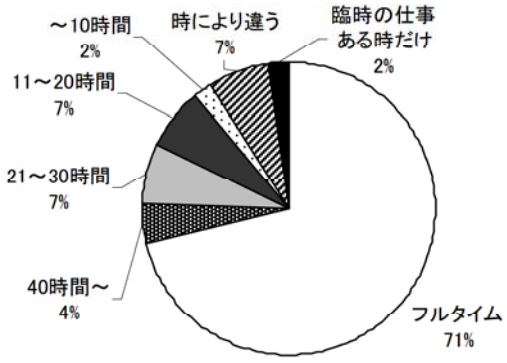
**仕事形態**（複数回答）




**現在の職種と年代構成**

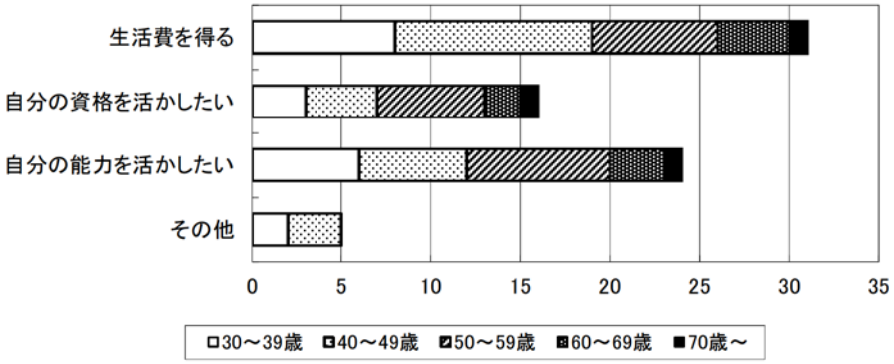



**就業時間**



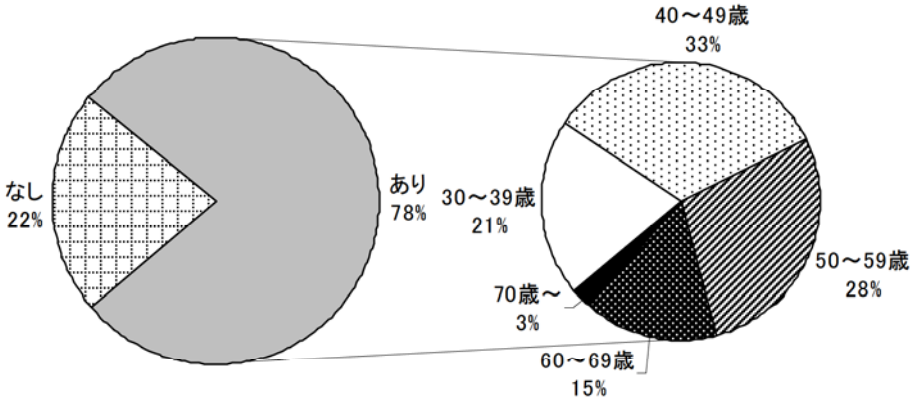
仕事をする理由については、最も多かったのが前回・前々回と同様に「生活費を得る」で 60%（前々回 47%→前回 40%）、次に「自分の能力を活かしたい」47%（前々回 42%→前回 17%）、「資格を活かしたい」31%（前々回 39%→前回 18%）となった。選択肢数を前回から大きく減らしたため、いずれも数値が高くなっているが、その他として「社会とのつながり」「社会貢献」といった回答も複数あった。

**仕事をする理由**（複数回答）




転職経験は 78%があると回答しており、40 代・50 代が多くなっている。具体的に上げられた理由には、結婚、出産・育児、夫の転勤など家庭事情やリストラ、震災などの受動的な要因と、働き甲斐のある環境やキャリアアップなど能動的な要因が半々くらいであった。

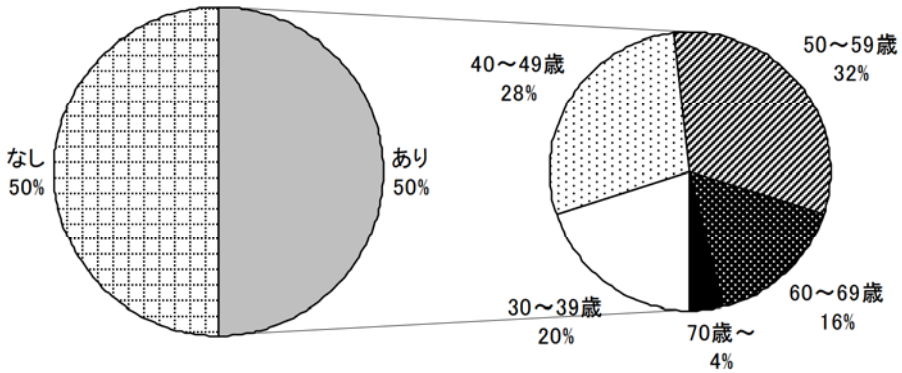
**転職経験の有無と経験者の年代構成**




休職経験は 50%があると回答しており、これについても 40･50 代が多くなっている。具体的に上げられた理由には、結婚、出産・育児、夫の転勤、家族の看病・介護とともに、自らの休調不良という回答も複数あった。

前回の調査では、休・転・退職の経験は 45%であり、出産・育児によるものが最も多かった。

**休職経験の有無と経験者の年代構成**



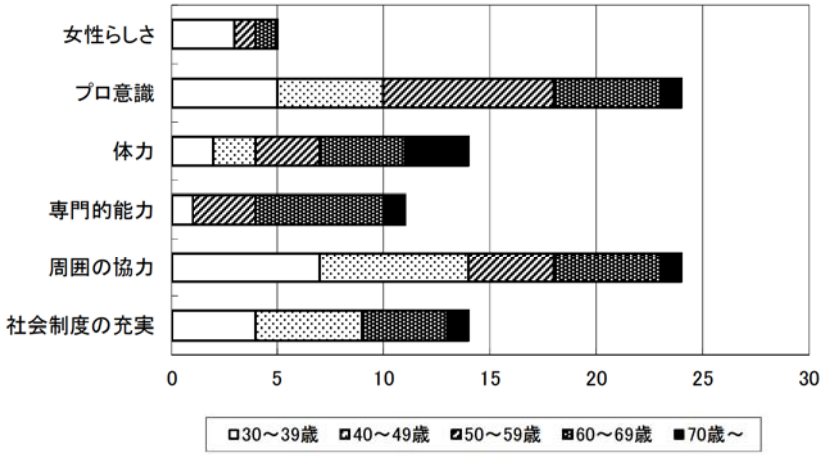

## Ⅲ　女性と仕事について

女性が仕事を続ける上で必要なことを聞いたところ、最も多い回答は「プロ意識」と「周囲の協力」の 47%で、特に 50 代ではプロ意識、30 代・40 代では周囲の協力を上げる人が多く見られた。

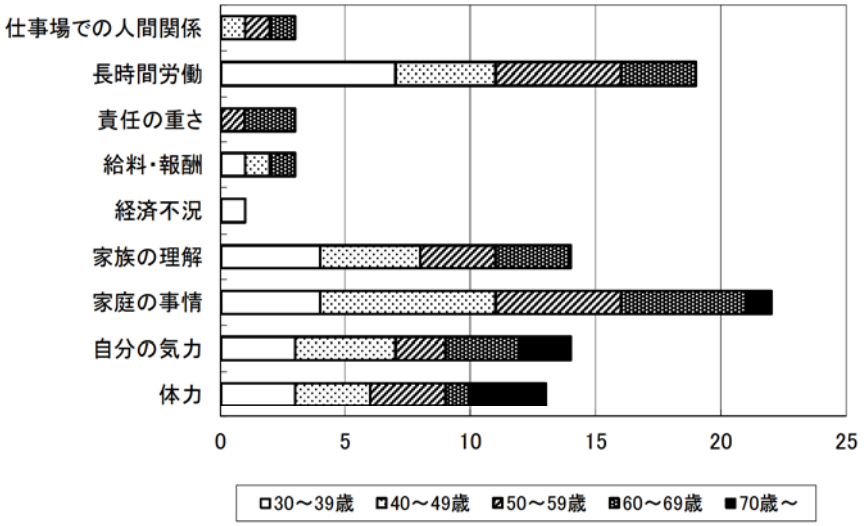
仕事を続けるためにはまだ周囲の協力が必要である現状を抱えている人が多いことがわかる。またその他として「女性が仕事を続けるのは当たり前だと皆が思うこと（40代）」という回答も見られた。

次に女性が仕事を続ける上での障害を聞いたところ、43%が「家庭の事情」と回答、次いで「長時間労働」が 37%であった。「家庭の理解」や「自分の気力」も27%となっており、仕事を続けるにあたっては、家庭との両立が重要な要素であり、まずは時間的な問題、そして気力・体力的な問題がクリアできるかどうかという状況を抱えているといえる。その他として、「女性も含めた社会の理解（40代）」や「子育て時期を乗り越えられるか（50代）」といった点も具体的に上げられた。

**女性が仕事を続ける上で必要なこと**（複数回答）

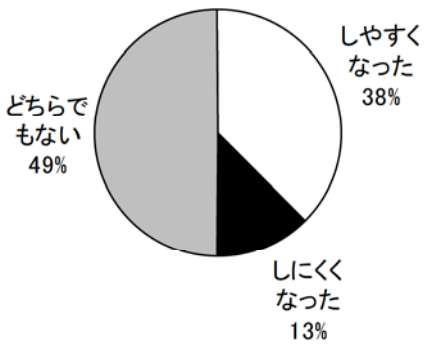



**女性が仕事を続ける上での障害**（複数回答）

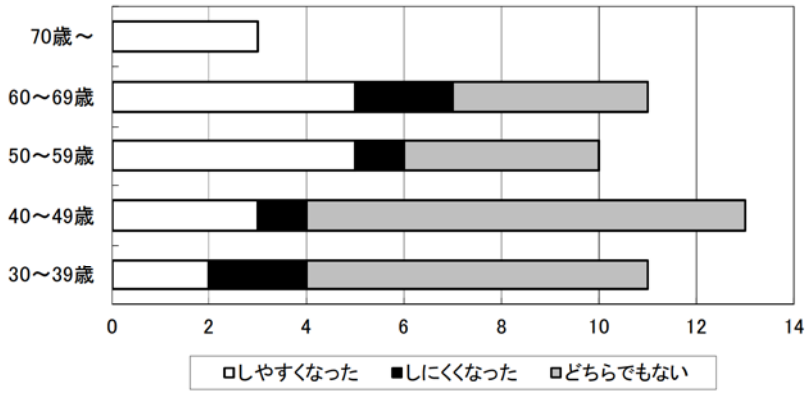



仕事のしやすさの変化を聞いたところ、しやすくなったが38%（前回30%）、しにくくなったが13%（前回22%）、どちらでもないが49%（前回48%）との回答になり、全体としてはしやすい方に変わってきている傾向が読み取れる。年代別では、男性社会の中で苦労した経験のある 50 代以上になるとしやすくなったとの回答が多く、女性が増えてきた環境で仕事を始められた 30・40 代はどちらでもないとの回答が多かった。

**仕事のしやすさの変化**



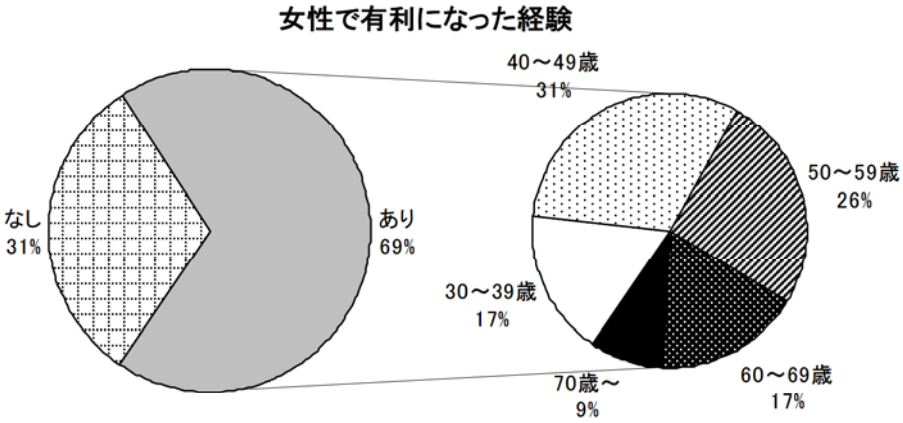

**仕事のしやすさの変化と年代構成**

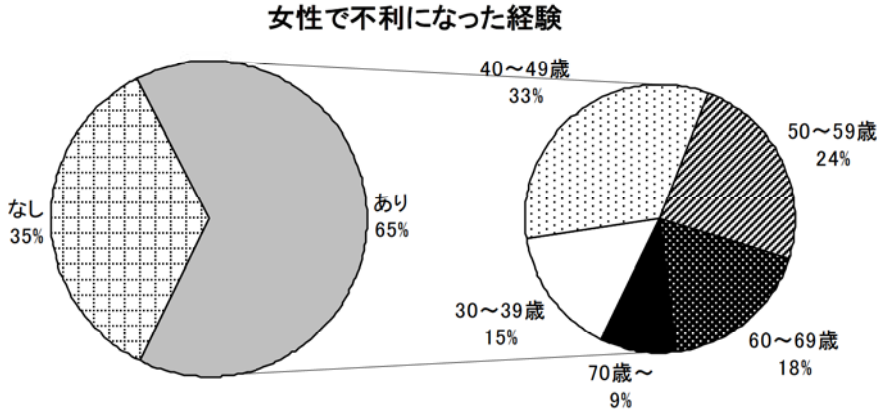


＜自由記入意見＞
●しやすくなった
・住宅をプランする上で、女性目線での考え方を重視してくれるようになった（30 代）
・女性の進出で周りの対応が変わってきた（50 代）
・能力があれば男女の区別なく、プロとして話ができる点（60 代）
●しにくくなった
・子育てでまとまった時間がとりづらく、集中できない（30 代）
・複雑なことが増加した（CAD 化、法令改正による仕事量の増加）（60 代）
●どちらでもない
・仕事に対して理解度が上がった点ではしやすくなったが、まわりのしがらみは増えた(40 代)
・女性が増えたことでしやすくなった半面、現場での女性に対する意識はさほど変わっていない（40、50 代）

仕事上の男女差に関して、女性で有利になった経験は 69%（前回 65%）がありと回答しており、40･50 代の割合がやや高い。施主に女性がいる場合になどで安心・信頼してもらいやすいことなどがあるようである。逆に女性で不利になった経験も 65%（前回 60%）がありと回答しており、これも 40・50 代の割合がやや高い。現場が女性に慣れていないことによる不都合などがあるようである。

有利にも不利にもどちらもある中で仕事をしている現状がうかがえる。




＜自由記入意見（抜粋）＞
**●女性で有利になった経験**
・女性にしかわからない事情や生活があり、話しやすい（30 代）
・覚えてもらいやすい（30 代、50 代、60 代）
・住宅設計の相談で、具体的な話ができる（40 代）
・家事など自分の経験から施主にアドバイスしやすい（60 代）
・職人等の対応がやさしい（30 代、40 代）
**●女性で不利になった経験**
・現場の職人が言うことを聞いてくれない（30 代、50 代）
・現場で”女のくせに”という言葉を聞く（30 代）
・現場監督、職人で、女性に苦手意識を持つ人がいる（50 代）
・力仕事、体力面で不利（30 代、40 代、60 代）
・雑用や家事の負担があり、仕事する時間が減ってしまう（40 代）

女性建築士に求められるものを聞いたところ、自由記入 34 件のうち「女性目線」や「女性の感覚、細やかさ」「家事・育児の経験をいかす」といった女性特有と思われる内容を上げたものが半数となり、女性であることを上手くいかすことが仕事上必要と考えている人が多いことがわかる。

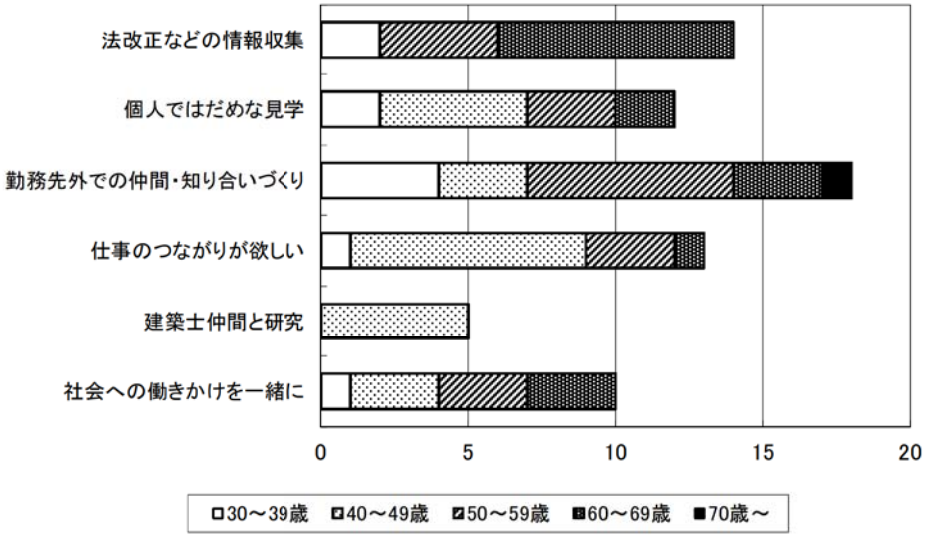
**女性建築士に求められるもの**

＜記入意見（抜粋）＞
・女性目線での提案・対応力（30 代、50 代）
・家事子育てなどの経験を活かした生活・住居スタイルなどの提案（30 代、40 代）
・プロ意識（30 代、40 代、50 代、60 代）
・衣食住のバランスのとれたアドバイス（40 代）
・男性にはない細やかさや、家事経験（40 代、60 代）
・心理カウンセラー的要素(40 代)
・家事・育児・介護等の経験と、女性の細やかさを設計・監理に活かすこと（60 代）
・その人らしさ（40 代）
・センス（30 代）

## Ⅳ　建築士会について

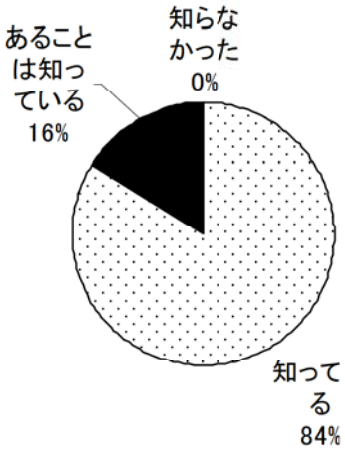
建築士会への入会のきっかけを聞いたところ、勤務先外での仲間・知り合いづくりが 35%と最も多く、次いで法改正などの情報収集が 27%、仕事のつながりが欲しいが 25%と多かった。年代別では情報の得にくい環境だった 60 代で情報収集目的、30 代や 50 代は会社とは違った仲間や知り合いをつくる目的で入会した人が多かったようである。

**建築士会の入会のきっかけ**（複数回答）

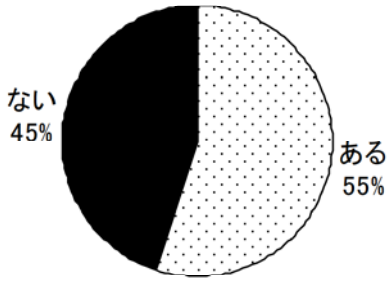



女性委員会の存在については知らなかったという回答はなく、知っているが 84%と圧倒的に多かったが、女性委員会の事業への参加の有無を聞くと、半数強があると回答、年代では 30 代が 27%、40 代が 50%、50 代が 75%、60 代が 64%、70 代が 67%と、年代で大きく偏りが見られた。

**女性委員会の認知**




**委員会事業への参加**

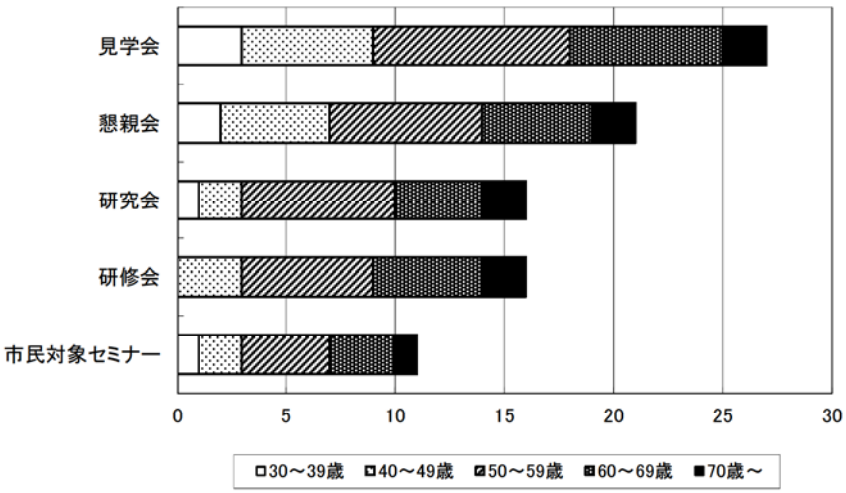


参加したことがあるという28名に参加事業を聞くと、見学会が 96%、懇親会が 75%、次いで研究会や研修会が 57%となった。

印象については熱心、勉強になったなど評価するコメントが多い一方、仲間意識が強い、参加者が減っているといった意見もあった。

参加したい事業については、実務につながる建築物や工場見学、講習会に加え、文化的なイベントや体験型事業などの回答も複数見られた。

**参加したことのある事業**（複数回答）




**事業に参加した印象**

＜記入意見（抜粋）＞
- 精力的に取り組んでいる人が多い（30 代）
- 勉強になった（40 代）
- 有意義で楽しかった（50 代、70 代）
- 見学地はどれもよかった（40 代）
- いろんな仕事をされている方と会って話すことができ、おもしろかった（40 代）
- あまり参加したことがなかったが、皆仲良く、入りづらかった（40 代）
- 一般の方、新顔の方がいない。他の会員にも参加してもらいたい（50 代）

**どんな事業に参加したいか**

＜記入意見（抜粋）＞
- 非公開の施設見学（30 代、60 代）
- ワークショップ（30 代、50 代）
- 最新の情報がきける研修会、見学会（40 代）
- おしゃれで文化的な催し（40 代）
- プレカット工場見学（40 代）
- 見学旅行（70 代）
- リフォーム相談会。地域への発信として、ボランティアとして（60 代）

**その他自由なご意見**

＜記入意見（抜粋）＞
- 今まで女性ばかりの集団に属することがなかったので、不安に思うところもあるが、今後興味のあるものには少しずつ参加していきたい(30 代)
- 家庭を持つ人が多く、参加が難しいかもしれないが、年に 1 回でも、おしゃれしてお酒や食事する場を設けることで、出て行きたいと思える場があればいいなと思う（30 代）
- 参加したいが、土日は子供がいるので行けない。平日昼間なら参加したい（40 代）
- 仕事上、女性であるためのハンディを感じたことがなかったので、女性建築士が集まる意味をあまり感じない（50 代）
- 資格を取ったころは珍しがられたが、今や世界の大舞台でも女性建築家が活躍する時代となった。（70 代）

社会の意識や制度は変わりつつあれども、個々が抱える問題は昔とあまり変わっていないという結果になりました。仕事と家庭の両立は永遠のテーマなのでしょうか。ただアンケートからは、そのような中でも自分らしく生きるため・働くために日々頑張っておられる皆さんの姿が見えてきました。女性委員会はこれからもそんな皆さんのお手伝いをしていきたいと考えています。

# 7　寄稿－女性委員会への応援メッセージ

女性委員会の活動は、様々な方の協力や応援があります。その方々からメッセージをいただきました。

## 参加した感想

横田　佳史

兵庫県建築士会神戸支部

㈱横田建築設計事務所　代表

女性委員会 30 周年おめでとうございます。ここまで来られるのに大変なご苦労があったと思いますがご活躍なさった皆さんに敬意を表したいと思います。

私が女性委員会の存在を知ったのは随分前になりますが、その時は正直、少し異和感がありました。建築士として社会で活動するのに男性も女性もないだろうと思っていたからです。

もともと建築の仕事は“男の仕事”と言う感覚でした。圧倒的に男性が多い中で、女性ならではの発想や考え方を伝えるには女性委員会の存在が必要だったかもしれないと今は思っています。

女性委員会の中では「ユニバーサルデザイン研究会」「木構造・木造住宅研究会」「よろず建築文化研究会」などの活動に参加しています。

残念なことはいつも男性の参加者が非常に少ないことです。女性委員会と銘打つと女性しか参加できないと思われていませんか？　建築を学ぶには“雑学”がとっても大事だと思います、雑学を学べる魅力的な事業をたくさんやられていますので男性も是非参加してください。

これからも女性にできること、女性にしかできないこと、女性ならではの発想や感性を大いに活かして、より一層のご活躍を期待しています。

## 女性委員会研究会に所属して

日高俊二　神戸支部　理事

女性委員会設立、30 周年を迎えられ、おめでとうございます。これは委員会の皆様のたゆまぬ努力と協調性があったからこそ続けられたことと思います。私が女性委員会の研究会に参加させていただいたのは平成 19 年からでした。誘われるままに「UD 研究会」、「家族と住まい方研究会」、「木構造木造住宅研究会」、「健康なすまいと暮らしを考える会」に席を置き、多くの方にお世話になりました。なかなか自分一人では興味はあっても行動に移すのは難しく、何もしないことが多かったのですが、皆様と会合を持ち、行動をともにすることで、とても貴重な経験をさせていただきました。女性ならではの視点、繊細でかつ現実みのある洞察力にはただ感心するばかりでありました。今後も微力ではありますが、協力させていただきたいと思っています。

## 求められる心理的バリアフリー

西原　誠助

西宮市建築指導課

この度は、女性委員会 30 周年おめでとうございます。現在女性委員会では 4 つの研究会が活動されていますが、女性委員会という事で入会をためらっている男性諸氏も多いのではないかと思います。

私も女性委員会の中に木構造・木造住宅研究会があるのを知りました。男女を問わず入会 OK とありましたが、女性の秘密の花園に足を踏み入れる感じで、また入会しても紅一点的存在になるのではないかと大きな心理的バリアがありズーと入会をためらっていました。しかし入会してみると、男性も沢山いて安心しました。この心理的バリアをなくす工夫をされ、これからも、ますます女性委員会の御発展を心からお祈りしています。

## 活躍する女性の姿

桂　美紀子　事務局

女性委員会設立 30 周年、おめでとうございます。女性委員会の事務局担当をさせていただくようになって、3 年目となります。これまでに、ブロック見学会や能舞台の見学など、いろいろな事業にお手伝いとして参加させていただきました。委員の皆様が、企画から実施まで細やかな気配りをされており、お手伝いをさせていただきながら、いろいろと勉強させていただいております。これまで、「建築士」というと、男性のイメージがあったのですが、委員会を通して、活躍される

女性建築士の方がたくさんいらっしゃることを知りました。今後益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、少しでも皆様のお手伝いをできればと思いますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

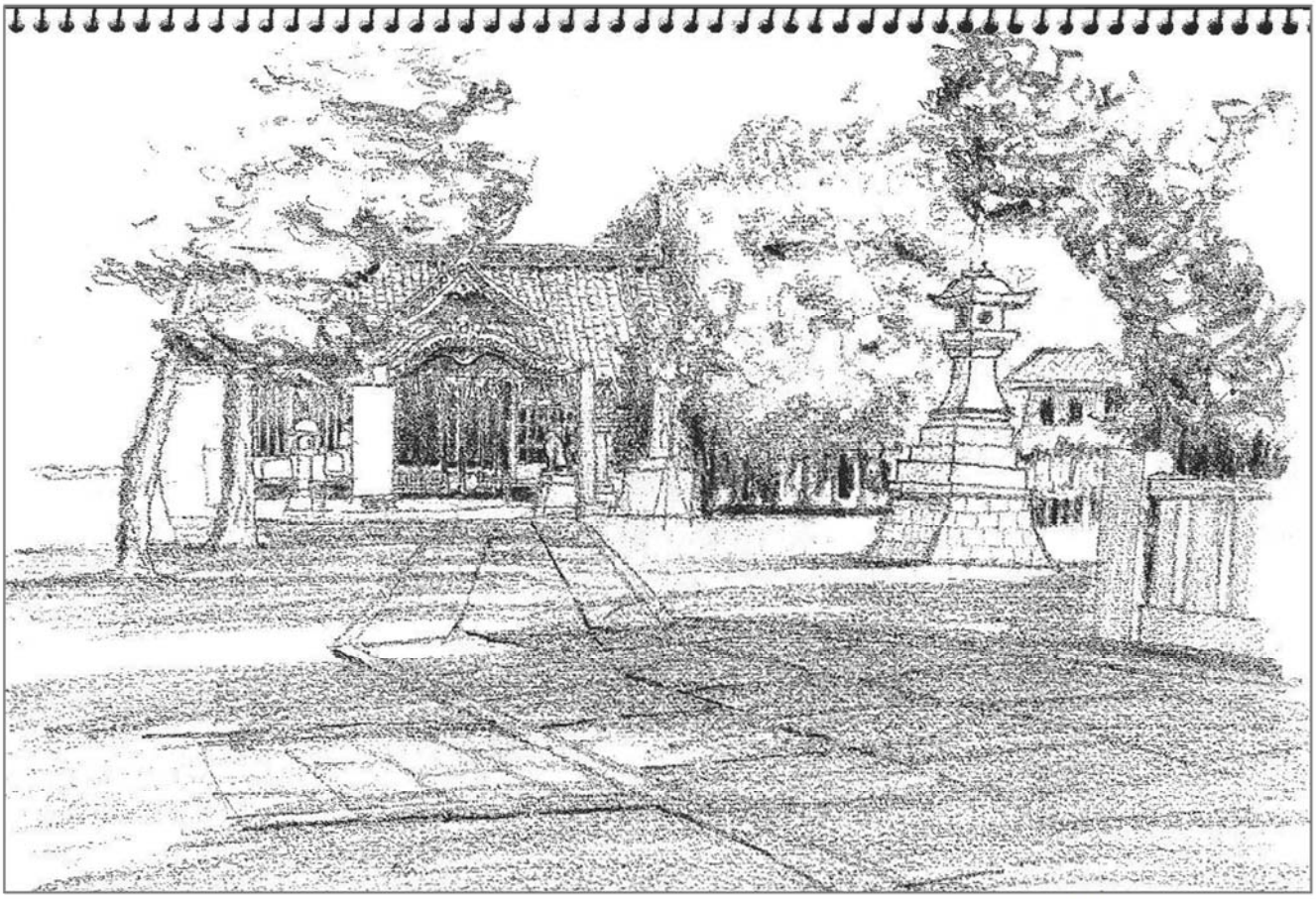
## 設立 30 周年おめでとうございます

山口朋子　事務局

建築士会に入って以来、10 年と少し女性委員会を担当させていただきました。あっという間でしたが、年数で見ると委員会の歴史の 3 分の 1 にもなり驚いています。委員会等を通じて多くの会員の皆様と触れ合うことができる時間は、私にとって貴重なものとなっています。中でも女性会員さんはいい刺激を与えてくれる同性の素敵な先輩という存在です。

同行させていただいた最近の見学会では、建築士や画家のアトリエ兼自宅訪問は素敵な生活空間にお邪魔できる滅多にない機会で、特に印象に残っています。また、一般市民向けの普及セミナーも、身近なテーマで興味深いものが多く、今は担当を離れましたが、機会があればぜひ聴いてみたいと思います。

家庭に仕事にお忙しいとは存じますが、今後とも楽しい企画をお願い致します。



スケッチ：高砂神社（西原　誠助）

# 8　役員名簿

| 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 会長 | 垂水英司 | 安田丑作 | 安田丑作 | 安田丑作 | 安田丑作 |
| 担当副会長 | 雨松良行 | 雨松良行 | 雨松良行 | 雨松良行 | 宮宅勇二 |
| | | | | 段敏郎 | |
| 委員長 | 常俊桂子 | 常俊桂子 | 八木景子 | 八木景子 | 八木景子 |
| 副委員長 | 八木景子 | 八木景子 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 |
| | | | 杉本雅子 | 杉本雅子 | 杉本雅子 |
| | | | 矢代恵 | 矢代恵 | 矢代恵 |
| 女性部会委員 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 | 森澤理恵子 |
| | 有賀芳子 | 有賀芳子 | 有賀芳子 | 有賀芳子 | 有賀芳子 |
| | 山本和代 | 山本和代 | 常俊桂子 | 常俊桂子 | 常俊桂子 |
| | 平内節子 | 平内節子 | 山本和代 | 山本和代 | 山本和代 |
| | | | 平内節子 | 平内節子 | 平内節子 |
| 研究部会委員 | 和田圭子 | 和田圭子 | 杉本雅子 | 杉本雅子 | 杉本雅子 |
| | 杉本雅子 | 杉本雅子 | 網本伸子 | 網本伸子 | 網本伸子 |
| | | | 和田圭子 | 和田圭子 | 和田圭子 |
| 普及啓発部会委員 | 矢代恵 | 矢代恵 | 矢代恵 | 矢代恵 | 矢代恵 |
| | 東影みどり | 東影みどり | 東影みどり | 東影みどり | 東影みどり |
| | 鷲尾真弓 | 鷲尾真弓 | 鷲尾真弓 | 鷲尾真弓 | 鷲尾真弓 |
| 事務局 | 山口朋子 | 山口朋子 | 山口朋子 | 桂美紀子 | 桂美紀子 |
| | | | 桂美紀子 | | |
| 女性会員数 | 131 | 125 | 112 | 111 | 108 |
| 兵庫県建築士会全会員数 | 2,231 | 2,140 | 2,039 | 1,942 | 1,882 |
| 女性会員の割合（%） | 5.9 | 5.8 | 5.5 | 5.7 | 5.7 |

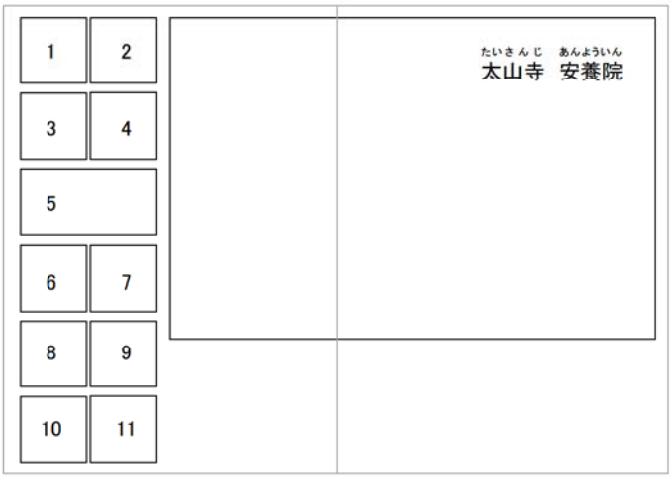
# 編集後記

第 5 回女性委員会の様子。事務局にて（平成 25 年 10 月）

「女性委員会 30 周年記念誌」編集担当（五十音順）

網本 伸子　有賀 芳子　杉本 雅子
常俊 桂子　東影 みどり　平内 節子
森澤 理恵子　八木 景子　矢代 恵
山本 和代　鷲尾 真弓
宮宅 勇二（担当副会長）
桂 美紀子（事務局）
研究会世話人：岩井 一枝　尾瀬 くみ
澤木 久美子　正木 恵子

表紙写真
1. 洲本港を望む
2. 芦屋能楽堂
3. 旧ユニオン教会
4. 城崎温泉
5. 竹田城
6. 旧ハッサム住宅
7. 姫路城　大天守保存修理
8. 旧甲子園ホテル
9. 明石海峡大橋
10. 鶴林寺　太子堂
11. 西脇小学校




公益社団法人 兵庫県建築士会

女性委員会　30 周年記念誌　＜平成 21～25 年度＞

「しなやかに　たおやかに」

□発行日　平成 26 年 3 月
□編集・発行　公益社団法人 兵庫県建築士会　女性委員会
〒650-0011
神戸市中央区下山手通 4-6-11　エクセル山手 2F
tel.078-327-0885
http://www.hyogo-aba.com/
□印刷　（株）日光印刷出版社
〒652-0842　神戸市兵庫区磯之町 1-16
tel.078-671-0141